



水虫の薬～市販薬の選び方

水虫は、カビの一種である白癬菌(はくせんきん)に感染して起こる皮膚病です。

■ 市販薬で対応可能かどうか？

以下のような場合は、市販の薬では十分な効果が期待できません。医療機関を受診しましょう。

- ・ 水虫かどうかははっきりしない場合。(初めて症状が出た場合は、自己判断が難しいので、受診を)
- ・ 患部が爪、顔、頭、陰のう、粘膜である場合や、広範囲な場合。
- ・ 患部が化膿している場合。ジュクジュクしたり、ただれたり、ひび割れたり、ひどい場合。
- ・ 妊娠または妊娠していると思われる場合。乳幼児、アレルギー体質の人の場合。
- ・ 他の病気で受診している場合。

■ 水虫の市販薬は、医療用の薬と同じ成分が含まれているものが多いことが特徴です

主な市販薬	成分名	相当する主な医療用薬
ウインダム	ラノコナゾール	アスタット
ブテナロックV	ブテナフィン塩酸塩	ボレー、メンタックス
ラミシール	テルビナフィン塩酸塩	ラミシール
ダマリンエース	アモロルフィン塩酸塩	ペキロン

■ 薬の選び方



* **患部の症状に合わせて薬のタイプ(軟膏、クリーム、液剤、スプレー)、を選ぶとよい**

タイプ	特徴
軟膏	べとつき感があるが、刺激が少なく、ほとんどの患部に使用できる。 ひび割れている、ジュクジュクしている場合は特にお勧め。
クリーム	使用感がよく、ほとんどの患部に使用できるが、びらん(水泡がやぶれたところ)には使用を避ける。破れていない水泡には向いている。
液剤・スプレー	患部に手を触れずに、細かい部位や広範囲に使える。使用感や浸透性がよく、冷却効果もある。アルコールを含むものが多く、ジュクジュクしている、ひび割れている場所には適さない。 ただし、パウダースプレーはジュクジュクしている場所に向いている。

* **かゆみがある場合、「かゆみを抑える成分」も含む薬を使うとよい**

かゆみを抑える成分	かゆみの抑え方	市販薬の例
クロタミトン	皮膚の温感を刺激してかゆみを打ち消す	ラミシール
クロルフェニラミンマレイン酸塩 ジフェンヒドラミン	かゆみを起こすヒスタミンを抑える	ブテナロックV (クロルフェニラミン、ジブカイン含有)
ジブカイン塩酸塩 リドカイン	皮膚の局所麻酔作用による	

■ 塗り方

- ・ 症状が治まっても菌は残っています。少なくとも1ヶ月は続けましょう。良くならない場合は病院へ。
- ・ 菌は患部だけでなく周辺部分にも潜んでいます。広い範囲に塗りましょう。